



JAAGA だより

日米エアフォース友好協会
Japan-America Air Force Goodwill Association

発行：日米エアフォース友好協会
〒162-0842
東京都新宿区市谷砂土原町 1-2-34
KSKビル3F
編集：JAAGA事務局
印刷：アロー印刷株式会社

外菌新会長就任挨拶

The inaugural greeting of the New President Hokazono

このたび、会員の皆様からの御信任を賜り吉田正前会長に続き第9代 JAAGA 会長に就任致しました外菌健一郎です。

JAAGA は、1996 年の創設以来、航空自衛隊 OB 組織「つばさ会」の附属組織として、航空自衛隊と米空軍の相互理解と友好親善の増進に貢献してまいりました。そして、その活動は、歴代会長を始め会員の皆様のご尽力により、徐々に幅広く、活発になってきております。日本を取り巻く安全保障環境は、日米同盟をさらに緊密なものにすることを求めています。JAAGA の活動が、航空自衛隊と米空軍の関係をより親密にし、そして日米同盟の更なる緊密化に貢献できるよう、精いっぱい努めて参りたいと考えております。

会員の皆様の絶大なるお力添えと各種活動への積極的なご参画を賜りますよう心からお願い申し上げます

平成 26 年 5 月 13 日

日米エアフォース友好協会会長 外菌健一郎



New JAAGA President Kenichirou Hokazono (ex-Chief of Staff, JASDF)

Ninth JAAGA president

General Kenichiro Hokazono, JASDF retired

13 May 2014

I am Kenichiro Hokazono, the newly appointed ninth President of JAAGA, approved by members of JAAGA as the successor of General (ret) Yoshida.

JAAGA was established in 1996 as an association attached to "Tsubasa Kai", organization of the JASDF (Japan Air Self Defense Force) retirees, and has been conducting the activities to promote mutual understanding and friendship between the JASDF and the United States Air Force (USAF). Thanks to the effort of the former presidents and members, the activities of JAAGA became more and more widespread and active. Current security environment surrounding Japan requires stronger Japan-US alliance. I will make my best efforts to deepen the bonds between the JASDF and the USAF and contribute to strengthen the Japan-US alliance through the activities of JAAGA.

I would like to ask all the members of JAAGA for further encouragement and active participation in various activities of the association.

平成26年度 JAAGA 総会開催

The JAAGA Annual Convention held on May 13, 2014

平成 26 年度 JAAGA 総会が 5 月 13 日（火）、グランド・ヒル市ヶ谷において、講演会、懇親会とともに開催された。

総会

年次総会が 15 時から 1 時間余にわたり開催され、

正会員総数 247 名の内、出席者 70 名、委任状提出者 153 名により、会則の規定により総会は成立し、審議等が進められた。審議に先立ち、本年春の叙勲において JAAGA 元会長である御二方が叙勲の栄に浴されたことが紹介された（竹河内捷次元会長が瑞宝大綬章、遠竹郁夫元会長が瑞宝重光章）。



The progress of the proceedings by President Yoshida

また、昨年度ご逝去された故後藤龍一氏、故川崎鎮雄氏の御冥福を祈り参集者全員で黙祷を捧げた。その後、総会の進行は会長挨拶、議案審議、新会長、副会長及び監事の選任、退任者の紹介、新顧問の委嘱等の順で整齊と実施された。

吉田正会長からは「JAAGAの活動はますます充実してきており、空自と米空軍との相互理解及び友好親善を推進し、日米両国の信頼関係の向上に貢献する」とした設立目的に十分合致した活動が鋭意なされている。19回目にあたる平成26年度総会においても前年度の総括を行い、今年度の事業及び予算等について鋭意御審議願いたい」との挨拶があった。

続いて、議案審議に移り、平成25年度事業報告、同決算報告、同監査報告、平成26年度事業計画、同予算の順に各々の議案について担当理事から説明があり、それぞれ承認された。その過程でJAAGAの活動に係る各種の案件について意見が交わされた。最終議案として、役員を選任が行われ、会長、副会長、監事、顧問、新任理事等の新年度の役員が紹介された。外薮健一朗新会長より「歴代会長の御功績を引き継ぎ、鋭意JAAGAの活動のさらなる発展に寄与したい」との挨拶がなされた。

最後に、外薮新会長からJAAGAへの貢献に対する感謝と共に退任する吉田前会長の紹介がなされた。さらに退任する副会長、監事、理事の紹介及び顧問委嘱が行われ参集する全会員から暖かい拍手が送られ総会議事を終了した。

講演会

第5空軍司令官兼在日米軍司令官 Lt. Gen. Salvatore A. Angelella による講演が16時半から18時までの間、「QDRに基づくアジア太平洋地域における米軍の活動について (U. S. Force's Operations in the Asia-Pacific Region Based

on the QDR)」の演題で実施された。

＜オバマ大統領訪日と日米同盟＞

冒頭、JAAGAが設立された1996年に第5空軍司令官の副官として日本での最初の勤務した時以来、5度にわたる日本勤務を通じて、JAAGAとの交流を持てた事に感謝が表せられた。

講演における主なテーマは、2014年3月に出されたQDR（4年毎の国防計画の見直し）の方針に基づく今後の在日米軍の活動であったが、講演を通じて、随所にオバマ大統領訪日の意義と日米同盟の重要性が語られた。司令官が大統領に会うのは初めてであったが、空港の出迎えラインに立った際は北朝鮮のミサイル発射の兆候も懸念される中、その訪日のタイミングはベストであり、「常に日本の自衛隊、特に航空自衛隊と緊密な連携を図っており、問題となるような新たな事項なし」と報告した事が紹介された。

大統領が日米共同声明において、半世紀を超える強固な日米同盟が北東アジアのみならずアジア地域全体の平和と安定に寄与し、その同盟関係は地域の安全と安定の要であるとの認識を明確に表明した事は極めて意義深いものだ」と述べた。

講演が始まると同時に、右サイドのスライドには米空軍の各種活動状況と併せ、ヘーゲル国防長官やオバマ大統領の訪日時の写真が映し出された。司令官の話と相まって、最近の日米間における緊密な交流を具体的な描写として振り返る構成となっており、スライドショー最後の写真は、デンプシー統合参謀本部議長と岩崎統合幕僚長が並び立つ写真であった。司令官はサイドの写真を振り返り、日米同盟におけるミリタリー間の連携を象徴するとの思いを込めつつ「とても、素晴らしい写真ですね」と語った。

＜QDRと国防戦略＞

主なテーマ



Guest Speaker Lt.Gen. Angelella gives a lecture to JAAGA members. The title is "U.S. Force's Operations in the Asia-Pacific Region Based on the QDR"

に関する内容としては、全般認識として、2012年に示された国防戦略指針により、経済成長の著しいアジアに軸足を置いたリバランスが推進されようとしているが、多国間との良好な安全保障環境を整え、国家間の緊張を抑止し顕在化させない事が緊要であると述べた。日韓やオーストラリアとの連携はもとよりインド、インドネシア等との間で各種情報の共有を図り、地域の軍事バランスを安定させ、開かれた国際経済環境及び地域の平和と安定に係る共通の認識を進展させる重要性についても言及した。

その戦略指針を前提に2014年のQDRにおいては、国防戦略の3つの柱として『本土の防衛』『地球規模の安全の構築』『戦力の投射と決定的な勝利』を設け、この北東アジアにおいても引き続き前方展開と関与を通じ、同盟国に安全を保障すると説明した。その中で米軍も、10年におよぶ紛争地域からの撤収、2013年の財政悪化に伴う国防予算削減そしてなかなか進まぬ装備体系の近代化等様々な課題に直面しており、統合部隊の再構築にも時間を要すると述べた。今後5年間で、米軍部隊の規模は縮小されるが、各種の近代化努力により最新の装備を配備する事により米軍の態勢を維持すると概括した。同時に、2015年以降の国防予算が改善するとの楽観ではなく、予算枠が厳しい状況のまま推移する事にも、十分に配慮した軍事態勢の構築が必要と述べた。

次に、米軍4軍種の戦力構成に関する決定内容を陸軍、海軍、海兵隊、空軍の順に具体的な数字を挙げつつ説明した。兵員数の削減、旧型装備品の退役、次世代装備品による近代化が主な決定事項であり、更なる国防予算の強制削減がされた場合の削減処置事項についても具体的な規模内容を語った。その際、この様な状況にあっても、空軍においては、いかなる高度な防空網にも対処し得る次世代の戦闘機等航空機の配備により、多くの旧型機が退役しても、十分に将来の脅威に対応可能との見解が示された。

< QDR とリバランス >

今後の削減が実行に移された場合、軍事態勢のリバランスは不可決であるとして、優先すべき分野として『サイバー』『ミサイル防衛』『核抑止』『宇宙』『海空戦力』『精密打撃』『ISR』『対テロ・特殊作戦』が挙げられている事を説明し、ミサイル防衛においては早期警戒と追尾能力の向上のために2番目のレーダーが日本に配備されることにも言及した。



JAAGA, JASDF and USAF members listen its lecture attentively

QDRのロードマップにおいては、厳しい国防予算の削減を行いつつも適切な軍事態勢のリバランスにより、2020年において米軍は最強の能力を維持確保し得るとしているとして述べた。この態勢にあつて、130ヶ国近くの国々と海上に展開する100万名を超える米軍人のうち5万名が日本に駐留し、あらゆるドメインに対処し得る能力を保持し、この地域の安定を保ち得ると語り、在日米軍司令官としてQDRを総括した。

結びとして、今後20年にわたって迅速でより深い軍事態勢の革新を行っていくためには、いくつかの難しい決断も有りえろとし、その際、軍事能力を最適化し、この地域の平和と安定を確保するため、最強の訓練と装備を確保出来る様に努力したいと述べた。また、個人としては、常に日本人の『良き隣人』として過ごしていきたいと語り、講演を締めくくった。

< 聴講者との質疑応答 >

講演の後、安全保障にかかわる各種案件について軍事専門家同士が真剣に語り合うといった雰囲気の中、



真摯な質疑応答が繰り返された。司令官は応答にあたって、ゆっくり言葉を選び、一つ一つの質問に丁寧に応答した。



『偶発的衝突に対す

Mr. Yamaguchi(Ret.Lt.Gen.) and Mr.Katoh(Mayor of Fussa) asks timely and delicate questions

る対処』については、何をおいても救助が最も優先し、外交ルートでホットな状況をクールダウンする対応が重要だと語った。その衝突が日米安全保障条約の対象地域であれば、外部からの一方的な武力行使に米国は反対し、日米両国の部隊は高度な連携を保ち行動し得る事を外交の土俵で表明する事になるだろうと述べた。

『オスプレー』については、デンプシー統合参謀本部議長の来日時に、司令官自身オスプレーに搭乗し、機体の信頼性と卓越した性能に深い感銘を覚えたと話した。フィリピンの台風被災時には、すみやかに現地に展開し、他の救助ビークルでは対処し得ない困難な救援任務を完璧に遂行した事を紹介して軍事作戦のみならず大規模災害時の有効性にも言及した。

『QDRの国防予算削減下におけるリバランスの実行可能性』については、空軍を例に取った具体的な説明により、リバランスを適確に実施する事は可能であり日本を含む北東アジアの安全保障に影響を及ぼさない事を明言し、講演内容を補足した。

『System of Systemsに対する対応』として、高度な米国軍事システムと同じ土俵にあがる事無く、心理、情報、サイバー等の非対称システム領域で米国が挑まれた場合の米軍の対処についての質問があった。この質問に対して司令官は「我々が実施する演習へオブザーバー参加要請する事により『安全保障に寄与する枠組み』に参入させる事も有効な方策」と述べ、安全保障に係る多国間会議の重要性についても言及した。

最後の質問は『防衛装備移転三原則』に関連した質問であったが、軽く微笑みつつ「残念ながら、お答え出来る職責を有していない」と答えながら、戦闘機パイロットとして空自のF-15に搭乗した際の印象を述べた。「戦闘機の機能を最高度に発揮出来

る高度の信頼性が備わっているのが直ぐ分った。この戦闘機を支える日本の防衛産業のレベルの高さを実感した」と語った。

懇親会

懇親会は18時15分から約1時間半にわたり、200名近い関係者が集まり実施された。航空幕僚長齊藤治和空将を始めとした統幕、空幕、各部隊、幹部学校等の空自関係者、第5空軍司令官兼在日米軍司令官Lt. Gen. Salvatore A. Angelellaを始めとした米軍関係者、木原稔防衛大臣政務官、中谷真一衆議院議員等、多数の来賓が出席して盛大な懇親会となった。

冒頭、日米両国の国歌吹奏の後、外薗会長から英語で「空自と米空軍の間の相互理解と信頼を深めるため、本年も各種の活動を通じて貢献していこうと考えております。この目的に即して本日の懇親会では、旧知の方も、初めてお会いになる方も胸襟を開き、日米間のフレンドシップをさらに深めてください」とオープニングのスピーチがなされた。

司会進行早坂理事の「The time you want comes. Please enjoy the rest of time, delicious food, drinking and chatting.」を合図に一気に場はくだけた和気藹々とした宴となった。昨年度からの試みとして、より親密な懇親の場を設けるため、会長の挨拶以外は全て自由な懇談の時間とされ、会が進むにつれて「QDRと北東アジアの安定」「大統領の訪日」等のやや硬めの話題から「SPORTEX等のゴルフ談義」「家族の近況」等の和やかな話題まで、硬軟併せた懇談の輪が会場各所で作られた。予定の時間はたちまち経過し、司会進行の閉会アナウンスに続き、小川副会長の閉会の言葉と納杯の発声により熱醒めやらぬ懇親会は閉会となった。

(杉山理事記)



New President Hokazono makes welcome speech at Reception of JAAGA annual Convention

Participants mutually enhance their friendship and relationship at its reception





グアムにおける日米豪共同訓練参加隊員を激励 JAAGA cheer JASDF participants to Cope North Guam in 2014



平成26年1月28日（火）～3月13日（木）、平成25年度のグアムにおける日米豪共同訓練及び日米豪人道支援・災害救援共同訓練が、米国グアム島アンダーセン空軍基地、北マリアナ諸島ティアン島及びファラロン・デ・メディニラ空対地射場並びに同周辺空域において、実施された。

これに先立ち、1月23日（木）、小川理事長、及び長島、杉山両理事が航空総隊司令官中島邦祐空将を、1月29日（水）、小川理事長、及び長島、渡部両理事が航空支援集団司令官半澤隆彦空将を訪れ、それぞれ共同訓練参加隊員を激励（激励品を手交）し、訓練の成功を祈念した。

中島司令官からは、「本共同訓練に対するJAAGAからのご支援に感謝します。南西域での実任務は続いています。空自の60年に亘る諸先輩の気概と伝統を受け継ぎつつ練成に励んでいく所存です。このような状況にあっても、共同訓練に参加する隊員の士気は非常に高いものと認識しており、この激励品を部隊指揮官にしっかりと伝え、隊員の更なる士気高揚に努めさせていただきます」と感謝の意が表せられた。激励品手交後、小川理事長から今後のJAGA活動の概要説明があり、中島司令官からは、「横田基地における日米両司令部の連携は極めて円滑になされており、太平洋空軍司令部との緊密な連携も日々深化しています。JAAGA会員の方々にも、米空軍との交流を通じて、その緊密度を感じていただいていることでしょう」との話があった。

半澤司令官からは、「本共同訓練に対するJAAGAからのご支援に感謝します。特に、環太平洋地域の人道支援は、先般のフィリピンにおける国際緊急援助活動では、レイテ島というかつての激戦地において現地の人々に非常に温かく迎えられた事



Air-to-air refueling exercise of KC-767 and F-15, JASDF.



F-15, JASDF at Andersen AFB in Guam



F-2, JASDF at Andersen AFB in Guam



JAAGA chairman Ogawa and Director Nagashima call on Lt. Gen. Nakashima, Commander of Air Defense Command in Yokota AB on 23 Jan. 2014



JAAGA chairman Ogawa, Director Nagashima and Watanabe call on Lt. Gen. Hanzawa, Commander of Air Support Command in Fuchu AB on 29 Jan. 2014

が隊員にとって大変感慨深かったと聞いており、本共同訓練に参加する隊員の士気も非常に高いものと認識しております。激励の趣旨を部隊指揮官にしっかりと伝え、隊員の更なる士気高揚に努めさせていただきます」と感謝の意が表せられた。

平成 25 年度から、グアムにおける『日米豪共同訓練』と『日米豪人道支援・災害救援共同訓練』は、それぞれ別の枠組みの共同訓練として実施された。

『日米豪共同訓練』では、平成 26 年 2 月 12 日（水）～ 2 月 28 日（金）、航空総隊（第 8 航空団、第 83 航空隊及び警戒航空隊）の人員 337 名、航空機 F-2A×8 機、F-15J/DJ×6 機、E2-C×3 機、及び航空支援集団（第 1 輸送航空隊）の人員 97 名、航空機 C-130H×2 機、KC-767×2 機が参加して、防空戦闘訓練、戦闘機戦闘訓練、空対地射爆訓練、電子戦訓練、空中給油訓練及び戦術空輸訓練を実施した。特に、実爆訓練では LASER JADAM という誘導弾を使用した訓練が実施された。

JAAGA からの激励品は、整備員の日焼け対策（日焼け防止・日焼け後のケア）等として使用された。

『日米豪人道支援・災害救援共同訓練』では、平成 26 年 2 月 16 日（日）～ 2 月 19 日（水）、航空支援集団（第 1 輸送航空隊）の人員 55 名、航空機 C-130H×2 機が参加して、航空輸送訓練、物料投下訓練、不整地離着陸訓練及び搜索訓練を実施し、人道支援・災害救援活動に係る米豪空軍との相互運用性の向上を図った。

JAAGA からの激励品は、炎天下、航空機の整備を実施する整備員の飲料水（スポーツドリンク等）



C-130H Crew on training "Air Drop mission"



Loading equipments to C-130H

として使用された。

なお、グアムにおける日米豪共同訓練及び日米豪人道支援・災害救援共同訓練の両訓練実施部隊指揮官からのお礼状は、JAAGA ホームページ (<http://www.jaaga.jp/>) に掲載している。

（渡部、杉山、山本理事記）



Commemorative photo during exercise



The fruit of their efforts by warriors of JASDF, USAF and Australian' AF
Various scene of exercise "Cope North Guam" during 28 Jan.~ 13 Mar. 2014

日米下士官相互部隊研修を支援 Japan-U. S. Bilateral NCO Exchange Program

本研修は、平成 7 年度から実施しているもので、空自隊員が三沢、横田及び嘉手納の各米空軍部隊で研修するプログラムと、米空軍下士官が空自の各基地（25 年度は新田原、小牧及び小松の各基地）で研修するプログラムとがあり、平成 25 年 12 月 3 日から、平成 26 年 3 月 13 の間実施された。

研修場所、参加人員、研修期間等は表「研修概要」のとおり。

激励品を手交

平成 25 年 11 月 20 日（水）、小川理事長、長島、渡部両理事が空幕人事教育部長武藤茂樹空将補を、平成 26 年 1 月 23 日（木）、小川理事長、長島、杉山両理事が第 5 空軍司令官 Lt. Gen. Salvatore A. Angelella を表敬し、平成 25 度日米相互部隊研修（Japan-U. S. Bilateral NCO Exchange Program）を激励した。武藤人教部長からは、JAAGA からの現場への支援を大変有難く感謝しているとの謝意とともに、本研修は日米相互理解に大変重要な研修であり、継続した相互研修を通じて今後の F-35 の導入に必要な英語能力向上にも期待しているとの説明があった。また、Angelella 司令官からは「日米下士官交流のプログラムは、現場において日米のエア・パワーを支える下士官が相互理解を図り得る大変すばらしい機会を与えており、その重要性を理解され御支援をいただき JAAGA に心から感謝します」と本事業への理解及び JAAGA への謝意が示された。また、同席した CMSgt. James A. Laurent からは「私は嘉手納、三沢、横田の各基地で勤務し、この交流プ



JAAGA call on Maj. Gen. Mutoh, ASO on 20 Nov. 2013 to cheer the program with 24 participants JASDF NCO



JAAGA call on Lt.Gen Angelella and CMSgt. James Laurent, 5AF on 23 Jan.2014 to encourage 26 participants from Yokota, Misawa and Kadena to Nyutabaru, Komaki and Komatsu AB

ログラムにも空自の千歳、浜松基地で参加しました。相互にいろいろな特技毎の現場におけるプロフェッショナルな姿に接し、大変思い出に残る有意義な研修でした。今回は 5 空軍の先任下士官として空自隊員を受け入れる事が出来て光栄に感じます。有意義な交流に出来る様に努力するとともに、JAAGA の支援に感謝します」との謝意が述べられた。

空自隊員の米空軍部隊研修

三沢基地では、第 35 戦闘航空団において、航空機整備、エンジン整備、武器弾薬及び飛行管理の各職場で空自隊員 8 名の研修が実施された。研修初日には第 35 戦闘航空団最先任下士官代理の CMSgt. Albert Christman による日米交流の重要性についての講話が実施された他、米軍組織の理解をさらに深めるため、各特技の職場だけでなく他の職場の研修も実施された。

横田基地では、第 374 空輸航空団において、航空管制、空中輸送、飛行管理、教育訓練、総務、

空自隊員の研修		
受け入れ基地	研修期間	研修人員
横田	26. 2.18～ 2.25	8名
三沢	26. 2.20～ 2.27	8名
嘉手納	26. 2.27～ 3. 6	8名
米空軍下士官の研修		
受け入れ基地	研修期間	研修人員
新田原基地	25.12 .3～12.10	10名
小牧基地	26. 3. 3～ 3.13	8名
小松基地	26. 3.11～ 3.17	8名

研 修 概 要

補給及び輸送の各職場で空自隊員 8 名の研修が実施された。初日と最終日の懇親会では、空自の各准曹士先任と米空軍横田基地の最先任下士官等が多数参加し日米の隊員達を激励した。

嘉手納基地では第 18 航空団において、航空機整備、高射操作、高射電子整備、通信、地上無線整備、土木建築及び燃料の各職場で空自隊員 8 名の研修がそれぞれ実施された。訪日のため嘉手納基地を訪問中の米太平洋軍最先任下士官（海軍）の Fleet Master Chief Mark W. Rudes が日米相互部隊研修初日の歓迎会の場で研修者に対し、日米間の交流の重要性について述べ、隊員達を激励した。また同行していた統幕最先任の渡邊満徳准陸尉、在日米軍最先任下士官の CMSgt. James A. Laurent から激励の言葉があり研修初日から充実した研修となった。（杉山理事、渡部理事記）

米空軍下士官の空自部隊研修

新田原基地

研修参加者は、第 18 航空団（嘉手納基地）所属の、航空機整備、地上電子整備、武器弾薬、検定、電気整備、エンジン整備、燃料、飛行管理の特技を有する軍人達であり、それぞれが、第 5 航空団の各部隊において自分達の特技に関する部隊での研修に臨んだ。

12 月 3 日（火）、空自随行者 3 名・米空軍随行者 6 名が、研修者 10 名を引率し那覇を出発し、新田原基地に到着した。当基地では、各隊准曹士先任、准曹会会長及び研修者受入要員が盛大に出迎えた。早速、研修者受入要員（11 名）が米軍側研修者の各特技員のもとに訪れ、自分のバディを確認し、日頃培った英語で自己紹介をしていた。その後、米空軍随行者 CMSgt. Daniel Janssen 以下 6 名、交流代表者 TSgt. Damion Wyatt 及び空自随行者上田空曹長が、新田原基地司令内倉浩昭空将補



JASDF and USAF service members took part in the exchange program in Nyutabaru AB on 3 Dec.2013



On The Job Training!? at Nyubaru AB

を表敬した。基地司令の英語による挨拶が、米空軍側の緊張を解きほぐしたようである。

午後に入り、概要説明及び基地見学を実施し、各受入部隊の状況を確認した。夜には、基地クラブで新田原基地司令も参加しての「アイス・ブレイカー」と呼ばれる歓迎パーティーが行われ、バディ同士の会話も進み、一気に親近感が増したように見受けられた。

研修半ばの週末には、史跡見学等（照葉大吊橋、雲海酒造、綾城、陶芸体験）を行った。特に陶芸体験では、慣れない手つきでのオリジナルのコップ作りが大変好評で、思い思いの作品ができた。なお作品は、後日、お店の方が焼き入れ等を済ませ、1 ヶ月後に各人の手元に届いたそうである。夕方からは、基地バーベキュー場にて、連続日本一に輝いた宮崎牛を試食してもらい、満足の日が終わった。

研修も終盤となり、12 月 9 日（月）には、フェアウェル・パーティーが行われ、うち解け合った日米下士官達は、研修間の思い出話が勢み、お互いに記念品交換を行った。中には感激のあまり、涙を流す隊員や軍人もいた。

翌朝、研修の全日程を終了した米空軍一行は、出迎え時と同様に、各隊准曹士先任及び准曹会会

長に見送られ新田原基地を後にした。

(5 空団准曹士先任准空尉 村上春雄記)

小牧基地

本研修には、第 374 空輸航空団（横田基地）の米空軍下士官 8 名が来基した。研修者は、航空管制、飛行管理、空中輸送、輸送、補給、総務、教育訓練の 7 特技に分かれており、第 1 輸送航空隊（飛行管理、空中輸送、輸送、補給、総務）、第 5 術科学学校（教育訓練）及び小牧管制隊（航空管制）において、それぞれ研修に臨んだ。

研修受け入れ当日の出迎えでは、小牧基地隊員及び米空軍の研修者も緊張した面持ちであったが、その後行われたウェルカム・パーティーでは、小牧基地の隊員が積極的に英語での意思疎通を図るとともに、突然行われた日米代表隊員によるアーム・レスリングにより大いに盛り上がった。

部隊研修は、各特技で工夫した研修計画に基づいてそれぞれ実施された。また、休日を利用して、ホーム・ステイや史跡研修等により日本の文化や風習に触れてもらうことができた。中でも、第 1 輸送航空隊（補給隊）で受け入れた研修者の SSgt.

Hailie Reyes が京都観光を熱望したため、補給隊の隊員は京都に案内し、金閣寺の見学、舞妓さんの演舞及びお抹茶を体験させ、感動と日本文化に対する理解の場を提供した。

また、本研修視察のために、第 374 空輸航空団最先任下士官 CMSgt. Manuel Roblesreynoso と日米交流調整官 TSgt. Imishia George が小牧基地を訪れ、第 1 輸送航空隊司令及び第 5 術科学学校長を表敬するとともに各部隊の准曹士先任と親睦を深めた。

さらに、岐阜基地准曹士先任とも交流を広め、岐阜基地内を見学するとともに愛知県犬山市にあ



On The Job Training!? at Komaki AB

る犬山城を見学した。犬山城では、天守閣から身を乗り出して風景を楽しみ、数々の展示物に深く興味を示した。

研修者達は、最終日に行われたフェアウェル・パーティーで、本研修間の思い出を互いに語り合うとともに、「今回の下士官交流が英会話を勉強するきっかけになった」という小牧基地の隊員や「家族のように受け入れてくれて感謝する」という研修者の言葉があった。

本研修を通じて米空軍下士官と航空自衛隊准曹士隊員の相互理解を深めるとともに、より強固な信頼関係及び友好関係の構築の一助とすることができた。（1 輸送隊准曹士先任准空尉 鈴木昭二 記）

小松基地

本研修には第 35 戦闘航空団（三沢基地）の 8 名の米空軍軍人が参加した。

研修参加者は、車両整備、計測器整備、エンジン整備、消防、警備、通信、飛行管理及び衛生の特技を有する軍人達であり、それぞれが第 6 航空団において、自分達の特技に関係のある部隊で研修に臨んだ。

3 月 11 日（火）に行われた歓迎会では、当初第



JASDF and USAF Members take a photo at Komaki AB

6 航空団の隊員も米空軍下士官達も緊張した表情であったが、互いに自己紹介等をするうちに、言葉がなかなか通じないものの、お互いを知り合おうという気持ちからか、少しずつ相互のコミュニケーションが進み、談笑する光景も見られるようになり和んだ雰囲気になっていった。

12 日（水）には第 35 戦闘航空団先任下士官 CMSgt. Barney Delano、日米交流調整官 MSgt. Jemison Cameron の 2 名が第 6 航空団司令山本祐一空将補を表敬した。

懇談の中で山本団司令は「今後も日米の絆を強めるために部隊研修等を通じてお互いの信頼を深めていきたい。」と語った。その後、記念品の交換がおこなわれ終始和やかな雰囲気の中終了した。

13 日（木）及び 14 日（金）の午前は、各特技における訓練をそれぞれの部隊で現地に行い、意見交換をすることでお互いに見識を深めることができた。それぞれが特技職のプロとして真剣な面持ちで臨んでおり、有意義な特技訓練となった。

14 日（金）の午後は、日米混合したチーム編制でソフトバレーボールを行った。歓声が基地内に響き渡るほどの盛り上がりを見せ、皆がとても良い汗をかいた。

15 日（土）は隊毎に対番の隊員が中心になり史跡研修を行い、金沢城、兼六園及び妙立寺（忍者寺）等を訪れた。妙立寺（忍者寺）では、厳かな雰囲気のなか、時折驚き笑顔を見せながらも真剣な様子で説明を聞き、「今まで日本で巡ったことのある寺社の中で一番良かった」と言って、お守りを購入した者もいた。

16 日（日）については、日本の伝統工芸を関係者全員で見学し、米軍下士官 8 名に、金沢に代表される金箔貼りを体験してもらった。これは、小皿に金箔を貼り付けてその上に好きな絵や文字を書き入れるというもので、初めは戸惑っていたものの、途中からは時間が経つのも忘れるほどの熱中ぶりで、それぞれが富士山や鳥居の絵を描いたり家族の名前を書いたりして、直に日本の伝統工芸に触れ思い出に残る記念の品を作り上げ、お土産として持ち帰った。

17 日（月）の見送りにには多くの隊員も参加し、別れを惜しんで抱き合う光景も見られ、和やかな雰囲気のなか、基地を後にした。研修開始当初にはぎこちなさがあったが、時間が経つにつれお互いを良く知ろうとする前向きな気持ちが生まれ、次第に親



On The Job Training!? at Komatsu AB

交を深め新たな友情を育み信頼関係が構築できた。また、第 6 航空団の隊員にとっても貴重な経験となり、英会話能力の向上はもちろん、英語に対し苦手意識を持っていた隊員も積極的にコミュニケーションを取ろうとするなど、とても実り多いものとなった。

（6 空団准曹士先任准空尉 五十川弘臣記）



JASDF Member and 8 USAF Member take a photo at Komatsu AB

平成25年度日米優秀隊員表彰 Commendation for JASDF & USAF Brilliant Soldier in 2013

平成 25 年度 JAAGA 日米隊員表彰式が、平成 26 年 2 月から 3 月にかけて那覇、三沢及び入間の空自基地において実施された。本表彰行事は平成 10 年度に開始されて以来 16 回目の実施となり、表彰者数は総計 110 名（空自 62 名、米空軍 48 名）を数えた。

— 沖縄地区表彰式 — Okinawa area

平成 25 年度沖縄地区 JAAGA 表彰行事が平成 26 年 2 月 7 日（金）、空自那覇基地で実施された。

表彰式及び懇親祝賀会は、那覇基地隊員クラブ「ブルー・コーラル」において、空自から南西航空混成団司令杉山良行空将、第 83 航空隊司令鈴木康彦空将補以下 10 名、米空軍から第 18 航空団副司令 Col. Charles "Brian" McDaniel 以下 8 名、那覇基地協力者として沖縄県防衛協会事務局長山縣正明氏、那覇基地協力会副会長瀧辺美紀氏他 4 名、そして JAAGA からは堀副会長、石津沖縄支部長を始めとする JAAGA メンバー 5 名の総勢 29 名の参加者を得て開催された。

表彰式は、安藤義隆 2 等空尉以下 19 名の南西航空音楽隊による日米国歌の演奏から始まり、続いて堀副会長から、JAAGA 活動の意義とこれまでのご支援への感謝、平素のわが国の安全保障への貢献に対する日米両部隊へのお礼、そして本表彰行事に係る多くの関係者、特に那覇基地の積極的なご協力、ご支援に対するお礼の言葉が述べられた。

今年度の空自側受賞者は第 83 航空隊の松本淳 3 曹空曹で、日米の航空機整備員間の交流の促進や、基地行事への相互参加、各種親善交流を部隊レベルで推進するなど日米間の相互理解と友好親善に貢献した功績が認められたものだ。米空軍側受賞者は第 18 航空団の Capt. William J. Sullivan で、日米共同訓練への多大な功績や、嘉手納基地内外における日米交流プログラムを積極的に推進したことなどの功績が認められたものだ。

堀副会長から日米両受賞者に表彰状と記念楯が授与され、受賞者それぞれの功績に対する祝福の言葉が述べられた。

また、残波ロイヤルホテル勤務の JAAGA 会員小川徳彌氏から残波ロイヤルホテル無料宿泊券 2 名分が副賞としてそれぞれの受賞者に手渡された。

その後、日米それぞれを代表して McDaniel 第 18 航空団副司令と鈴木那覇基地司令から祝辞があり、受賞者へのお祝いと敬意の言葉とともに、日米両国の協調がこの地域の安定と繁栄に寄与していること、空自と米空軍との間の絆強化の重要性、両受賞者の卓越した活動が仲間意識と団結の強化及び相互理解の促進に貢献したことなどが異口同音に述べられた。

表彰式後の懇親祝賀会は、那覇基地太鼓部による迫力ある和太鼓演奏が披露された後、那覇基地協力会副会長の瀧辺美紀氏から祝辞と乾杯があり、日米出席者は和気藹々の雰囲気となった。

受賞者挨拶では、Capt. Sullivan からは、受賞



JAAGA Commendation Ceremony in Naha AB on 7 Feb.2014. 29 people, including Vice President Hori, Lt.Gen. Sugiyama, Maj.Gen. Suzuki and Col. Charles McDaniel attended. SSgt.Jun Matsuki, JASDF and Cap.William J. Sullivan, USAF are commended

が名誉であること、昨年、空自のメンバーと一緒に仕事できたこと、基地内外の人たちとの交流ができたこと、相違点よりも共通点の多い日米両空軍の友好関係強化に今後とも頑張りたい旨が述べられた。松本 3 曹からは、NCOPS 参加を契機に、特に航空機整備職域では日米の交流機会が少ないことから交流に努力したこと、交流を通じて文化面、生活面等での相互理解を深めることができたこと、周囲の人々の支えがあって受賞できたこと、後輩を育て今後も日米友好の要石になりたいとの決意等が述べられ、平成 25 年度の沖縄地区 JAAGA 表彰行事は、受賞者を称える温かな雰囲気の中、滞りなく終了した。(飯田理事記)

— 三沢地区表彰式 — Misawa area

平成 26 年 2 月 21 日、沖縄地区(那覇)に引き続き三沢地区 JAAGA 表彰行事が、に航空自衛隊三沢基地において実施された。

三沢基地隊員クラブ「はなの舞」において開催された表彰式及び懇親祝賀会は、空自から北部航空方面隊司令官森本哲生空将、同副司令官上田知元空将補、第 3 航空団司令兼空自三沢基地司令城殿保空将補以下 11 名、米軍三沢基地から第 35 戦闘航空団司令兼米空軍三沢基地司令 Col. Stephen C. Williams 以下 9 名、三沢基地周辺協力者からは三沢市防衛協会会長山本昭三氏他 3 名、そして JAAGA からは永岩副会長以下 JAAGA メンバー 5 名の総勢 29 名での式典等となった。

表彰式では冒頭、永岩副会長から、日本を取り巻く厳しい国際環境と信頼に基づく日米同盟強化

の益々の必要性、日米の部隊の平素の活動に対する謝意、表彰行事の目的の紹介及び JAAGA の活動への積極的な協力、支援に対する謝意と今後なお一層の理解と協力が得られるよう努力していく旨の挨拶があった。

今年度の三沢基地における空自側受賞者は、北空司令部の立崎孝空曹長で、平成 25 年度三沢基地准曹会会長として各種友好親善行事や日米下士官同士による各種共同活動を企画運営し友好親善と相互理解の増進に貢献した功績が認められたものである。米空軍側受賞者は、第 35 戦闘航空団の Capt. Yukubu A. Carriker で、空自三沢基地の隊員に対する英語教育を支援するとともに、日米交流プログラムを積極的に推進し尽力した功績が認められたものである。

永岩副会長から日米両受賞者に、それぞれ表彰状と記念楯が授与され、その功績を称え祝福された。

その後、日米の両基地司令から挨拶があり、米空軍三沢基地司令 Col. Williams からは、両受賞者の功績を称えつつ、日米友好に努力している現場の下士官達をはじめ JAAGA に対する謝辞が述べられた。空自三沢基地司令城殿空将補からは、受賞者へのお祝いの言葉とともに、「三沢基地は日米友好を象徴する基地であり、友好親善に寄与した隊員を表彰してもらうことは、特に意義深いことである」との本表彰に対する感謝の言葉が述べられた。

表彰式後の懇親祝賀会は、三沢市防衛協会会長山本昭三氏の「厳粛な雰囲気の中での受賞は受賞者にとって一生の名誉になるであろう。このこと

を心に刻んで欲しい」との祝辞と更なる友好親善を祈念しての乾杯の音頭で開始され、その後、日米両受賞者から挨拶があった。

Capt. Carriker からは、「真の友人は、友人のために地位、名誉、更には生命まで危険にさらす…」というキング牧師の言葉を引用し、日米両空軍の友人のために地域の友人のために引き続き努力したい旨の言葉が、立崎曹長からは、本日の受賞が、自分を取り巻くすべての人の力の賜物であ



JAAGA Commendation Ceremony in Misawa AB on 21 Feb.2014
29 people, including Vice President Nagaiwa, Lt.Gen. Morimoto, Maj.Gen. Kidono and Col. Stephen Williams attended
CMSgt. Takashi Tachizaki, JASDF and Capt. Yukubu A. Carriker, USAF are commended

るとの感謝の言葉とともに、空自三沢基地准曹会会長としての立場からも、引き続き日米下士官交流の増進のために努力したい旨の決意がそれぞれ述べられた。

最後に、丸山 JAAGA 三沢支部長からお礼の挨拶と乾杯の発声があり、平成 25 年度三沢地区 JAAGA 表彰行事は、有意義かつ暖かい雰囲気の中で幕が閉じられた。(飯田理事記)

— 関東地区表彰式 — kantou area

平成 26 年 3 月 27 日（木）、平成 25 年度関東地区 JAAGA 表彰行事が空自入間基地において実施された。本表彰行事は、当初 2 月 14 日に予定されていたところ、大雪の影響で順延となったものである。

表彰式は「入間イン」、懇親祝賀会は「第 2 厚生センター」において開催され、空自からは中部航空警戒管制団司令兼入間基地司令田中幹士空将補、作戦システム運用隊司令兼空自横田基地司令柏瀬静雄 1 等空佐他 7 名、米空軍からは第 374 空輸航空団 Maj. Edward Walker 以下 8 名、入間基地周辺協力者として入間航友会会長荻野喜美雄氏、入間基地青年同友会会長抜井尚男氏、及び入間基地退職者雇用協議会会長豊田義継氏の計 3 名、そして JAAGA からは永田副会長以下 JAAGA メンバー 4 名の総勢 24 名の参加者を得て実施された。

表彰式は、入間基地軽音楽部“ZOOT36J”の坂田 3 等空佐他 7 名による日米国歌の演奏から始まり、続く永田副会長の挨拶では、米空軍及び空自の活動に対する謝意と平素の JAAGA 活動へのご支援に対する感謝、そして本表彰行事に係る関係者、特に入間基地による積極的なご協力、ご支援に対するお礼が述べられた。

今年度の空自側受賞者は、作戦システム運用隊の原田芳彦空曹長（空自横田基地）と第 1 高射群の田中歩准空尉（入間基地）で、それぞれ日米各種交流行事での積極的な貢献や日米関連事業での活躍が認められたものである。米空軍側受賞者は、第 374 空輸航空団の MSgt. John P. Souza（米軍横田基地）で、横田基地における多くの交流行事に参画し日米交流プログラムを積極的に推進した功績が認められたものである。

永田副会長から日米 3 名の受賞者にそれぞれに表彰状と記念楯を授与され、その功績が賞賛された。

米空軍側受賞者の MSgt. Souza は、現在アフリカ地域に単身勤務中であり、Mrs. Akiko Souza 夫人とともに Ms. Sakura Souza と Ms. Arisa Souza 娘姉妹が出席し、表彰状授与には皆さんが壇上に上がって祝福を受けた。航空自衛隊代表の田中空将補及び第 374 空輸航空団の Maj. Walker のお二人から、受賞者を称えとともに、日米同盟が一層重要になる中、強固な連係を築く上で相互の一層の信頼関係向上が不可欠であり JAAGA が両者の架け橋になってくれるようお願いする旨のご祝辞があった。

表彰式後の懇親祝賀会においては、まず入間航友会会長の荻野喜美雄様から受賞者への祝意と日米同盟の重要性が強調された祝辞とともに乾杯の発声があった。その後、3 人の受賞者（米側は代理の Mrs. Souza 夫人）からは、それぞれ、今回の受賞を光栄に思うこと、支えてくれた上司、同僚、家族への謝意、そして今後も一層日米関係強化のため尽力するとの決意が表明されました。こうして平成 25 年度関東地区 JAAGA 表彰行事は有意義かつ楽しい雰囲気の中で幕が閉じられた。

(飯田理事記)



JAAGA Commendation Ceremony in Iruma AB on 27 Mar. 2014

**24 people, including Vice President Nagata, Maj.Gen.Tanaka, Col.Kashiwase and Maj. Edward Walker attended
CMSgt. Yoshihiko Harada, JASDF, W.O. Ayumu Tanaka, JASDF, and MSgt. John P. Souza, USAF are commended**

— 受賞者及び功績の概要 —

Recipients and their Achievements

平成25年度JAAGA賞の受賞者の所属・氏名・功績等は下表の通りである。彼らの日米両エア・フォーの友好基盤と信頼関係の構築への多大な貢献に対して表彰状と記念品を贈呈して顕彰した。

スの友好親善と相互理解の増進並びに日米両国間

区分	所属部隊	受賞者	功績の概要
空 自	北部航空 方面隊 司令部 (三沢)	 空曹長 立崎 孝	平成 25 年度三沢基地准曹会会長として、日米下士官交流会、日米上級下士官就任式等の日米交流諸行事を積極的に企画立案し交流促進を図るとともに、日米共同安全運動を実施する等日米間の相互理解と友好親善の促進及び信頼基盤の充実に貢献。
	第 1 高射群 (入間)	 准空尉 田中 歩	第 1 高射群の准曹士隊員の代表として、米空軍下士官との交流を推進し日米の相互理解と友好親善の増進に寄与。特に、4 回にわたる米留経験を生かし、米空軍横田基地の下士官と相互の部隊訪問及び家族間交流を展開する等日米信頼関係の向上に積極的に貢献。
	防空指揮群 (横田)	 准空尉 原田 芳彦	空自連合准曹会横田支部長として、空自准曹会事務局と米空軍横田基地下士官団のパイプ役となり、それぞれが主催する行事の細部調整を実施。また、スペシャル・オリンピックに役員として参画し米軍主催行事を積極的に支援する等米空軍横田基地とその周辺団体等との友好親睦にも多大な貢献。
	第 83 航空隊 (那覇)	 3 等空曹 松木 淳	日米の航空機整備員間における各種親睦行事を企画実行し、米軍関係者を基地行事へ招待する等日米の部隊間交流、友好親善に尽力。平成 24 年度日米豪協同訓練間における米軍企画行事に自衛隊員が参加できるよう調整する等日米豪協同訓練の基礎作りにも積極的に貢献。
米 空 軍	第 35 戦闘 航空団 (三沢)	 Captain Yukubu A. Carriker	北防群の管制官を中心に、戦術に係る教育及び英語のレッスンを提供し、中防群司令、西防群司令及び各カウンターパート間の交流訪問を実施する等日米交流プログラムを積極的に推進し米空軍と空自との相互理解及び友好関係の向上に貢献。
	第 374 空輸 航空団 (横田)	 Master Sergeant John P. Souza	第 374 空輸航空団の日米交流委員会の長として、11 回に及ぶ日米研修や日米交流行事に参画。また、横田基地の有志による清掃ボランティアを行い福生市内の 70 以上の公園清掃を実施する等地域住民との友好親善にも積極的に貢献。
	第 18 航空団 (嘉手納)	 Captain William J. Sullivan	DACT 訓練担当将校として日米共同訓練に参画し日米のインオベの向上に寄与。特に、米空軍の OCA 訓練において空自の T-4 を初参加させる等空自のカウンターパートとの緊密な連携のもと日米共同訓練の訓練内容の充実、向上に多大な貢献。

SPRTEX' 13B開催

“SPORTEX' 13B” took place at Tama hills G.C.



**Players say “Smile” under fine weather on 21 Mar. 2014.
95 golfers, 44 JAAGA members including President Yoshida, 28 JASDF members including Gen. Saitoh,
Lt.Gen. Nakashima and 23 USAF members including Lt.Gen. Angelella enjoy playing**

平成 26 年 3 月 21 日（金）春分の日、SPORTEX' 13B が米軍多摩ヒルズ・ゴルフ・コースにおいて開催された。関東地方は 3 月 18 日（火）に春一番が吹いたが、SPORTEX 開催前日の 20 日（木）は終日冷たい雨が降り続く悪天候であった。しかし、関係者一同の想いが天に通じたためか、競技当日は春の嵐も収まりやや北風が強いものの春の陽気に恵まれた。

空自から航空幕僚長齊藤治和空将及び航空総隊司令官中島邦祐空将以下 28 名、米空軍からは第 5 空軍司令官 Lt. Gen. Salvatore A. Angelella 以下 23 名、JAAGA からは吉田会長をはじめ正会員等 44 名、計 95 名が競技に参加し、日本側 3 名、米軍側 1 名が競技の支援を行った。

早朝 5 時前から参加者が集合し始め、クラブ・ハウスでの朝食、懇談等の後、6 時半から開会式が行われた。吉田会長からは「今年は SPORTEX 参加の皆さんに米空軍の三沢、横田、嘉手納各基地で開催されている『スペシャル・オリンピックス』への募金を紹介させていただきます。日米相互の親睦を図るゴルフ競技と併せスペシャル・オリンピックスの支援においても日米親善の想いを深めていただければ幸いです」との挨拶があった。ダンディーな口髭に趣を新たにした Angelella 司令官からも「この競技を通じて、更なる友情と共通の思い出を深め作っていきましょう」との挨拶があった。齊藤空幕長から英語で「体は付いてこずとも気持ちちはアヘッド！アヘッド〜！」と力強くユーモア溢れるスピーチに参加者の気分も和み、ナイス・ショットを念じて記念の集合写真を撮った後、7 時を期して一斉に競技が開始された。

梅が咲き富士を遠望する暖かなコンディションの中、後半からは春の日差しを心地よく感じつつ、

日米友好と会員間の親善を醸しつつ和気あいあいと競技が進行した。

競技終了後、プレーの内容を楽しく話題にしつつ昼食となった。昼食後、成績の発表、表彰式が行われ、ベスグロ競技者に対し会長賞、司令官賞が贈られ、引き続き空幕長からの当日賞をはじめドラコン、ニアピンの各賞が贈られた。また、5 位から 95 位まで、5 位刻みのラッキー賞の発表に際しては、予期せぬ賞品授与に和やかな歓声が湧いた。

閉会にあたり、Angelella 司令官から「昨年 3 月は公務でハワイにいて多摩ヒルズの競技に参加出来ず大変残念でしたが、今年は春を告げる SPORTEX を空自や JAAGA の皆様と楽しむ事が出来てとても満足です」との話があり、会長からは「今年の春も SPORTEX が盛会の内に終了したことを嬉しく思います」との閉会の辞と、併せて米軍競技支援者と多摩ヒルズ・ゴルフ関係者への御礼が述べられた。午後 1 時過ぎ、SPORTEX' 13B は無事終了し、参加者は賞品や良き思い出をいただきながら陽光に包まれた多摩ヒルズを後にした。（杉山理事記）



Director Watanabe introduce keystone of “Charity Box” for Special Olympics

JAAGA講演会：空幕装備部長

Lecture for JAAGA member on 24 Feb. 2014 at Grand Hill Ichigaya

平成 26 年 2 月 24 日（月）15 時から約 2 時間にわたり、グランドヒル市ヶ谷において、空幕装備部長小野賀三空将補を講師として JAAGA 講演会が開催された。今回は「新戦略・大綱・中期に紡ぐ空自後方」と題して、防衛力整備と後方の関係を分かり易く紐解きながら、新たに定められた国家安全保障戦略を具現化し、戦略目標を達成するための基盤となる後方について、その現状と展望が語られた。

講演に先立ち永岩副会長より「南西域の情勢や新たな戦略、大綱、中期に関心が集まる昨今、演題は極めて時宜を得た内容である」旨の挨拶があり、祝電が披露された。正会員 57 名、法人会員 30 名、個人賛助会員 8 名、計 95 名が参集し熱心に聴講した。

講師は防大 26 期生（国際関係論）で職種は高射であり、空幕装備体系課長、2 術校長、1 補長、防衛監察本部監察官を歴任、一昨年 7 月より現職にある。講演は、その全体像を聴講者がイメージアップ出来るように、冒頭、以下 7 項目の論旨、論点が示された。

- ①国家安全保障戦略（以下「NSS」）について
- ②防衛力は NSS の一翼を担う
- ③大綱→中期→年度は NSS の一具現化プロセス
- ④年度は、資源（予算）を具体化する
- ⑤後方は、資源を防衛力に造成し、維持する
- ⑥防衛力の造成・維持で戦略を紡ぎ上げる
- ⑦防衛力の造成・維持の課題

この論旨の流れに沿いつつ、その論点の陰影を深めながら講演は進められたが、講師の複数回にわたる米国留学、国際関係論専攻、防衛力整備の主務者等、幅広い経験と学識に裏打ちされた見識



Lt.Gen.Yoshizoh Ono, Director of Logistics Dep., ASO gives a lecture

が随所に現れ、興味の尽きぬ内容となった。

①～②については、勃興する隣国の状況を踏まえつつ「元寇の図」をあげ「歴史的な試練に立ち向かう」ためには、「国際協調主義に基づく積極的平和主義」を旨とした NSS は機宜に適った政策であり、「工具箱にハンマーしかない」愚を犯すことなく、政治・経済・外交・社会・文化等と共に防衛力が総合的な安全保障の一翼を担うと語った。③～④については、「グレーゾーンへのシームレスな対応」等、現状における問題点の是正を含め、NSS の具現化を大綱→中期→年度の中で図り、「統合機動防衛力」の構築・運用が喫緊の課題と述べた。また、資源（予算）について、物件費、新規後年度負担、旧正面と旧後方の経費変遷等の切り口から、空自の新規装備品導入が重視されている事を説明した。⑤～⑥については、「空の勝利は技術にあり」の言葉の通り、予算の制約下にあっても急速な技術変化に対応した能力向上を図る必要があり、後方はその造成・維持の役割を担うと述べ、具体的な努力事項として、総合取得改



JAAGA Member attended the lecture enthusiastically



革による中期における実質的な財源確保（7000億円捻出）の方策について説明した。⑦については、今後の後方に係る課題として、「防衛生産・技術基盤への手当」及び「資源の制約、効率化への努力」を取り上げ、将来に向けて努力すべき方向性について言及した。更に、全般を総括しつつ「日米同盟は戦略を紡ぐもうひとつの縦糸」と述べ、米空軍と空自の絆を深める JAAGA のメンバーに話をすることも戦略的に意義のあることとして講演を締めくくった。

2 時間弱の講演の後、村木元空幕長等から質問がなされたが、いずれも現下の厳しい状況において前進する空自に想いを込めたものであり、講師からも空幕防衛部の担当者時代に空幕長から受けた薫陶内容が紹介された。最後に、永岩副会長から講師に対

し謝辞があり、記念品が渡され講演会は終了した。

（杉山理事記）



Mr. Muraki, ex- Chief of Staff, JASDF asks a question.

平成25年度 那覇・嘉手納基地研修 Naha & Kadena AB Tour held on 4~5 Mar. 2014

平成26年3月4日（火）～5日（水）の2日間、JAAGA 会員の那覇・嘉手納基地研修が行われた。当研修は隔年で三沢基地と交互に行われているもので、今回は、団長柴田幹雄氏（元陸将）、副団長酒井祐二氏以下総勢 32 名の研修団となった。

現地到着から出発まで実質丸一日の短い研修日程、あいにくの天候不良等、環境条件は必ずしも十分ではなかったにもかかわらず、嘉手納基地渉外部長の普久原尚子氏曰く「これまでで最も盛りだくさん」の研修内容であり、内容の詰まった極めて意義深い研修であった。

【行動概要】

1 日目（3 月 4 日（火））

入間基地ベース・オペレーションにて団結式を行い、空自の C-1 にて那覇基地へ移動した。

09:00 入間基地発 12:10 那覇基地着

雨交じりの強風の中、南西航空混成団司令杉山良行空将の出迎えを受けた後、柴田団長、酒井副団長及び森下理事の杉山団司令への表敬が行われた。団司令から歓迎と JAAGA 活動への感謝の言葉があり、団長からは研修受け入れに対する謝意の発言があった。また、団長自らが描いた絵のカレンダーが団司令へプレゼントされた。

挨拶の後、隊員食堂において那覇基地主要幹部との会食が行われた。あいにく直轄部隊指揮官が不在であったため、南混団司令、直轄部隊副司令及び南混団司令部各部長等との会食となった。会食に先立ち、杉山団司令から歓迎の挨拶があり、和やかな雰囲気の中で会食は進行した。

13:15 南混団及び那覇基地概況説明

南混団幕僚長堀田隆治 1 空佐、第 83 航空隊副司令横山寛 1 空佐及び南混団司令部総務部長石村尚久 1 空佐から、約 1 時間半に及ぶブリーフィングを受けた。ブリーフィング内容は南西防衛区域の



JAAGA member call on Lt. Gen. Sugiyama, Commander of South-Western Air Defense Force. (from right) Mr. Sakai, Sub Leader, Mr. Shibata, Leader of Tour and Mr. Morisita Director



Base Briefing by Col. Hiroshi Yokoyama, Vice Commander 83 AW

特質、地元との連携、那覇基地の置かれた状況及び沖縄の通史などであり、とりわけ石村 1 佐の、約 6 千年前まで遡った琉球王国の誕生までの時代と王国の繁栄、薩摩藩の琉球支配、沖縄県の誕生、沖縄戦、戦後の米軍統治、復帰後の沖縄という、沖縄を舞台とした 6 千年の歴史説明に、研修団全員が熱心に耳を傾けた。また、横山 1 佐の三線（サンシン）の優雅な演奏という「余興」もあり、印象に残るブリーフィングであった。

14:35 那覇基地発 15:50 嘉手納基地着

当初は移動中に砲台跡等の研修が計画されていたが、雨のため中止となった。

到着と同時に米空軍第 18 航空団司令兼嘉手納基地司令 Brig. Gen. James B. Hecker の直接の歓迎出迎えを受けた。Hecker 司令の日本勤務は今回で 3 度目で、前回は東日本大震災の際、在日米軍司令部 J-3 の運用部長としてトモダチ作戦の作戦調整の責任を担ったそうである。また、F-15C/D、F-22 及び MQ-1（遠隔操縦航空機）の操縦士で、飛行時間は 3,200 時間以上との事である。

司令部の会議室で Hecker 司令自らによるコマンド・ブリーフィングが実施された。ブリーフィング内容は、嘉手納基地の極東におけるロケーション、第 18 航空団の任務と編制、基地に所属する支援部隊の概要、配備航空機についての説明であり、トモダチ作戦においては HH-60G を配備する第 33 救難 SQ が活躍したとのことである。

ブリーフィング後、Hecker 司令に対し御礼の記念品贈呈が行われた。

18:15 懇親会（17:45-18:15 カクテル・タイム）

嘉手納基地のオフィサーズ・クラブにおいて、米空軍第 18 航空団の各指揮官等を招待し、懇親会が行われた。JAAGA 沖縄支部の石津支部長と名富事務局局長も忙しい中駆けつけてくれた。懇親会前のカ



Call on Brig.Gen. James B. Hecker at 18 AW at Kadena AFB



Commander of 18AW welcome Mr. Shibata
Head of the tour

クテル・タイムには Hecker 司令も参加し、会員と楽しく懇談していた。

懇親会には新井理事と第 18 航空団プロトコール・チーフの Capt. Joshua Caragan の司会により開始された。最初に柴田団長から、研修団受け入れの謝辞と世界最強のエア・フォースのブリーフィングを受けることができ感激した事、そして「トム・クルーズ主演のトップ・ガンは残念ながら海軍です。今度は是非第 18 航空団所属の F-22 のパイロットが東シナ海で不法航空機を追い回す映画を期待しています。最も、その場合は JAAGA 主催の嘉手納基地研修は女性ばかり参加して大変ですが・・・」

（一同笑）と締めくくった。Hecker 司令はこれに対し、「第 18 航空団のトム・クルーズはそこに座ってる作戦群司令の Col. Peter J. Milohnic です」（一同笑）と述べた後、歓迎の言葉とともに「大切なのは同盟と航空優勢。そしてそれらによる抑止です」と挨拶した。

余興として、三線の名手、松田榮進氏と山内輝雄氏による「十九の春」、他 3 曲の弾き語りが披露された。お二人はコンクールで優勝するほどの腕前で、普段は地域の公民館等で教えていらっしやるとの事。独特の物悲しいメロディーと音色に一同酔いしれつつ懇親会は終了を迎えた。

最後に森下理事から JAAGA の活動の紹介と「お・も・て・な・し」への御礼の挨拶があり、閉会となった。

20:15 団結会

場所をラウンジに移して研修団の団結を深めた後に、嘉手納基地内の施設に宿泊した。

2 日目（3 月 5 日（水））

08:00 嘉手納基地研修

朝食終了後、Hecker 司令自らが JAAGA 研修者と同じバスに乗りこみ、基地内の各部隊への案内を買って出ていただいた。

研修は基地所在部隊である RC-135 を運用する第 390 情報 SQ からスタートした。ここでは松田理事の旧知の仲という隊長の Lt. Col. Kouji Gillis から部隊の任務等のブリーフィングを流暢な日本語で受けたが、嘉手納基地渉外部の方々も第 390 情報 SQ のブリーフィングを聞くのは初めてという貴重な内容だった。飛行場地区では、F-15C、F-22、KC-135、HH-60G の説明をパイロットや整備員、救難員、救護員たちから受けた。特に F-22 を目の前にした「F-22 には制空権 (Air Control) がある」という説明と、KC-135 が本国への患者空輸のためにローテーションしつつ常駐しているという説明は印象的であった。また各航空機ごとに集合写真撮影があり、研修の大なる記念となった。

最後に、那覇基地からの迎いのバスに乗り込む際に Hecker 司令からひとりひとりに記念写真が手渡され、嘉手納基地の研修を終えた。

10:45 嘉手納基地到発 11:30 那覇基地着

隊員食堂における体験喫食の後、柴田団長から「米軍部隊の長が自らがフル・アテンドをしてももらえるという事は極めて稀です」と計画に当たった JAAGA 理事に対する感謝の言葉があった。その後、204SQ の F-15J の離陸状況見学した後、空自の C-1 にて那覇基地を後にした。

13:00 那覇基地発 15:30 人間基地着

人間基地の天候不良による小牧基地への行き先変更が案じられたが、C-1 は軽やかな着陸操作で風雨の人間基地に到着した。第 2 輸送航空隊司令からの傘の配慮に感謝しつつ、ベース・オペレーションにて再会を祈念して解散となった。

(渡部理事記)



Scenes of Study Tour at Kadena AB



Commemorative photo with F-22 at Kadena AFB

特集

日米幹部夫人交流活動紹介

Japan-U.S. Bilateral Spouse Exchange Activities in Iruma AB

空自と米空軍の更なる信頼関係を醸成する活動の一環として、双方の幹部のご夫人方による相互親睦を図る交流が行われている。日米幹部夫人の活動を紹介する第2回目は、入間基地における空自幹部夫人の会「新生入間会（通称：入間レディース）」と横田基地の第374輸送航空団所属の米空軍幹部夫人の会「横田レディース」との心温まる交流を紹介する。

まず始めに新生入間会について紹介します。

昭和40年に「いるま会」として入間基地主要幹部夫人による親睦等を目的として発足しました。平成19年に日米交流を目的として加え、更に平成21年に基地所在将官夫人を名誉会員等として迎え規約を改正し「新生入間会」となりました。現在は「米軍横田基地・基地業務担当部隊である第374輸送航空団主要幹部夫人との親善交流により相互理解を深め、緊密な日米防衛協力に寄与すること及び会員相互の親睦を図ること」を目的として活動しています。従って米空軍夫人との交流の歴史はそれほど古くはありません。また日米交流の活動は観桜会や納涼祭等の基地行事への招待やクリスマス会、おひなさま祭り会といった双方の基地内での活動を主体に行ってきました。

今回紹介する交流活動は、従来の基地内での活動の枠を越え、新生入間会主催のおひなさま祭り会に代えて小江戸川越での日本文化を体験する企画を行った時の活動の様態です。

本年3月13日（木）小雨交じりの天候の中、川越において日米双方のご夫人16名（日本側：9名、米国側：7名）が集い、小江戸の街中を着物姿で散策し昼食（和食）を楽しみました。

入間レディースは、9時15分に修武台宿舎に集合し、入間基地稲荷山門にて横田レディースを出迎え、9時30分にマイクロバスで川越まで移動、約1時間後に川越市内に到着しました。始めに着物レンタルサロン「美々庵」にて中部航空警戒管制団司令夫人田中明子会長の挨拶でプログラムが開始され、引き続き各夫人はそれぞれ自分の好みに合ったレンタル着物を選択しお店のスタッフの助けを受け着付けしました。特に米夫人の皆さんは着物初体験であり、戸惑いながらも楽しそうに和気藹藹とした賑やかな雰囲気に着付けを楽しんでいました。この着物体験は、着物・帯の他、履物、足袋、バッグ、簡単なヘアセット、かんざしなど全て含まれている本格的なもので着物を着て外出も出来るとあって外国人観光客にも大好評を博しているそうです。日米のご夫人方は和服姿で徒歩約10分の老舗料亭「山屋」に向かい、武蔵野の風趣豊かな庭園を背にして昼食（懐石お弁当）をとりました。日本庭園の美しさもさることながら、綺麗に彩られ繊細な味付けの和食に舌鼓を打ちながら話も弾み約1時間の昼食を終え、いよいよ川越市内の散策に出かけました。横田レディース夫人は代表の第374輸送航空団司令官令夫人 Mrs. Cristen August さんをはじめ全員、川越訪問が初めてで「時の鐘」、「蔵造りの町並み」、「菓子屋横町」などで歴史的な江戸風情の街並みを楽しみつつ、民芸品や川越名物の食べ物や菓子などにも興味津々で食べ歩きなども経験し感動と驚きの約1



Ladies in "Kimono" say "O-MO-TE-NA-SHI" at Kimono Salon "Bi-Bi-Ann" in Kawagoe city on 13

時間の散策を満喫した様子でした。その後「美々庵」に戻り着替え、14時15分頃名残惜しい川越を離れ、15時過ぎに入間基地に到着し約6時間に及ぶ感動の交流を終えました。基地を離れての交流活動に多くの不安を抱えながらの企画でしたが、川越市民の皆様の誠意溢れる「おもてなし」の心に支えられ円滑かつ無事に終わることができ、かつ日本の奥深い文化を紹介・体験することができ日米親善に多大な成果を収めることができました。お世話になった皆様に改めて感謝の意を表したいと思います。

(中警団渉外班資料提供・早坂理事記)



At souvenir shop, choosing and looking "Chopstick rest"



Ladies enjoy "vegetarian cuisine" At Yamaya, traditional Japanese restaurant



At Kashiya-Yokocho, Street Shopping not window shopping with umbrella in drizzle

特集

米空軍士官学校だより

The recent state of United States Air Force Academy

昭和29年（1954年）に設立された米空軍士官学校は、今年、創設60周年を迎えた。第17代教育交換幹部として米空軍士官学校において勤務している上田和人3等空佐からの近況を紹介する（上田 3 佐から吉田会長へのJAAGAだより送付に対するお礼の手紙等の内容を引用）。



Japanese Exchange Officer at his class room

私は、第17代教育交換幹部として米空軍士官学校で勤務しております3等空佐上田和人（うへだかずと）と申します。先日は「第45号JAAGAだより」を送付して頂き、誠に有難うございました。早速、「米空軍士官学校交換留学生のホスト・ファミリーに」の記事について、翻訳を添えて、本校の国際交流部へ紹介させて頂きました。

さて、空軍士官学校の近況について、少し紹介させて頂きます。

1 初の女性学校長の就任

平成25年8月12日、Lt. Gen. Michelle D. Johnsonが女性として初めて、学校長に就任されました。空軍士官学校の卒業生で、士官候補生時代は、成績が優秀で、学生隊学生長を務められたと



Lt. Gen. Michelle D. Johnson at her inauguration speech

お聞きしました。

2 防衛大学校の短期訪問

平成26年1月18日～25日、4名の防大生が本



At the welcome banquet for exchange officer by Consulate General, Ikuhiko Ono (leftmost)



At the welcome banquet for cadets from Japan by Consulate General



At the International Reception by the superintendent, Lt. Gen. Johnson

校を短期訪問しました。

政府閉鎖により、予定されていたインターナショナル・ウィークと呼ばれる国際士官候補生の会議が中止されましたが、防衛大と空軍士官学校との間の調整により、短期訪問が実現しました。

日本以外で学生の短期訪問を実施した国は、オーストラリアのみでした。

3 デンバー日本国総領事によるご支援



With Mr. Paul Maruyama and his spouse at the reception in honor of the National Day of Japan, the Birthday of His Majesty the Emperor

在デンバー日本国総領事の大野郁彦（おおのいくひこ）氏には、交換幹部着任歓迎会の開催や、天皇誕生日祝賀会への交換幹部、防大生及び士官学校関係者の招待等、日頃から様々なご配慮を頂いています。また、防衛大学校長の國分氏とお知り合いの間柄ということもあり、防大生の激励会



Cadets from Japan and their escort cadets during their short term visit to USAFA (Jan 24th 2014)



Japanese language conversation table

も開催して頂いています。

4 日本語授業の存続

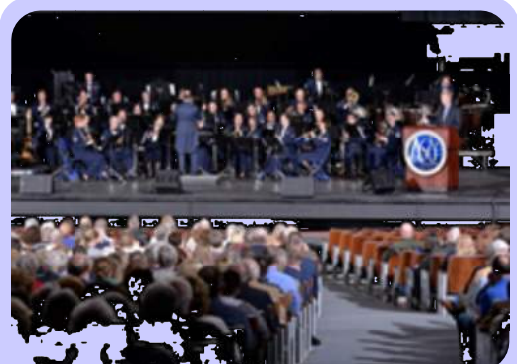
アラビア語、中国語を選択する学生が増す中、引き続き毎学期約 100 名前後の士官候補生が日本語を選択しています。また、制服教官 2 名を含む 5 名の優秀な教官が彼らを担当しています。その他、毎週金曜日の昼休みに、会話の練習会（日本語テーブル）が実施されています。

5 日本人スポンサーによる交換幹部へのご支援

代々の交換幹部のスポンサーである Yoko Hatton 女史は、引き続きご健康で、交換幹部及び



**The parade by Cadet Wing (upper left)
The logo for USAFA 60th anniversary (upper right)**



**USAFA 60th Anniversary Celebration
Band Concert**

その家族を
ご支援頂い
ています。

6 米空軍
士官学校創
立 60 周年
平成 26
年 4 月 1 日、
米空軍士官
学校は創立
60 周年を迎

えました。空軍士官学校の創立記念日は、1954 年 4 月 1 日、アイゼンハワー大統領が米空軍士官学校設立の法案に署名した日とされています。創立 60 周年の記念行事として、4 月 1 日にコンサートが開催された他、4 月 9 日には学生隊によるパレードが実施されました。

7 統合幕僚長、航空幕僚長のご訪問

(1) 統合幕僚長

平成 26 年 4 月 1 日、統合幕僚長岩崎茂空将が、米国及びカナダ公式訪問の一環として空軍士官学校をご訪問されました。その際、4 学年の全空軍士官候補生に対し、日米同盟というテーマでご講演を実施されました。結言として、夫婦関係の円熟に時間がかかることと、手入れをしない庭がすぐに荒廃するという比喻を用いて、日米同盟の深化とそのための平素の様々な取り組みの重要性を強調されていました。スピーチ終了時は全学生総立ちで、拍手喝采となりました。

(2) 航空幕僚長の来校

平成 26 年 4 月 3 日、航空幕僚長齊藤治和空将が、太平洋地域空軍参謀総長等シンポジウムに伴う部隊訪問として、空軍士官学校をご訪問されました。

米空軍士官学校の沿革

1954年	アイゼンハワー大統領 米空軍士官学校設立法案に署名
1955年	デンバー市内のローリー空軍基地臨時訓練場において第1期生の教育開始
1958年	コロラドスプリングス市内の新校舎に移転
1963年	チャペルが完成
1964年	士官候補生受入規模を約2,500人から約4,400人へ拡大
1968年	グライダー訓練開始
1972年	防衛大学校との間で学生交流(短期派遣)を開始
1976年	初めて女性士官候補生が入校
1976年	航空自衛隊との間で交換幹部制度を開始(初代交換幹部: 竹河内氏)
2004年	創立50周年、学校地区の建造物が国定歴史建造物として指定される
2007年	防衛大学校との間で学生交流(長期派遣: 学期間留学)を開始

(沿革: 米空軍士官学校HPより抜粋、日本にかかる内容を青字で加筆)

当日は、本校の学生食堂(ミッチェル・ホール)において学生と昼食を共にされた後、空軍士官養成プログラムについてのブリーフィングを受けられました。

先日、JAAGA のホームページを参照させて頂きましたところ、過去に JAAGA の会員の方々が、本校を訪問されたと知りました。今後も、もしご訪問の機会がございましたら、是非ご一報ください。精一杯ご支援させて頂きたいと考えています。

米空軍士官学校交換幹部 3等空佐 上田和人



Pacific Air Chiefs and USAFA cadets



Chief of Staff, Joint Staff of JSDF at his lecture for USAFA cadets



平成26年度事業予定表

項目	実施時期	1/四半期				2/四半期				3/四半期				4/四半期		
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3			
1 日米隊員の 激励等	(1) 日米共同訓練参加隊員の激励等															
	(2) 日米隊員の表彰															
	(3) 日米隊員の交流活動等激励															
2 米空軍軍人の 日本研修等支援	(1) 米空軍軍人の日本文化研修支援															
	(2) 米空軍軍人の地域行事等支援			○	横田	○	三沢		○	嘉手納						
3 JAAGAと 空自・米空軍 との交流	(1) SPORTEX'14															
	(2) 指揮官交代行事等への出席等															
	(3) 米空軍協会総会への参加						○									
	(4) 在日米空軍各基地との連携の強化															
	(5) 米空軍慶弔への対応															
	(6) 関係団体との交流	○									○	クリーティングカード				
4 広報及び 広報協力	(1) 日米要人等の講演		○													
	(2) 米軍基地等の研修															
	(3) 日米安保等に関する広報活動															
	(4) 会報「だより」の発行・配布															
	(5) 一般広報(HPの運営等)															
5 総会等			○	5/13												
6 運営管理	(1) 会勢の拡大等															
	・会員の拡充															
	・支部の活性化等															
	(2) 組織基盤の整備等															
	(3) 会員名簿の作成・配布															
	(4) 役員会(★)・理事会(☆)															
	(5) 監査															
		☆	☆	★	☆											
	○前年度分															

凡例:  年間を通じて実施  実施時期未定

平成25年度決算報告

収 入

支 出

(単位:円)

区 分	予算額	執行額	予算科目		予算額	執行額
前年度繰越	5,186,965	5,242,845	事業費	共同訓練激励費	600,000	500,785
年会費	3,986,738	3,940,993		表彰関係費	450,000	417,180
利息	1,000	842		友好親善行事費	970,000	573,752
寄付金等	0	0		広報費	1,350,000	971,082
				総会費	600,000	604,443
				小 計	3,970,000	3,067,242
			運営管理費	入会活動費	60,000	66,642
				名簿関係費	120,000	105,420
				役員会運営費	230,000	208,948
				支部運営費	120,000	40,000
				事務所運営費	170,000	150,080
				事務通信費	130,000	58,707
				小 計	830,000	629,797
				周年行事積立金	600,000	600,000
				予 備 費	200,000	0
				支出計	5,600,000	4,297,039
合 計	9,174,703	9,184,680		翌年度繰越	3,574,703	4,887,641
			合 計		9,174,703	9,184,680

平成26年度予算

収 入

支 出

(単位:円)

区 分	予算額	予算科目		予算額
前年度繰越	4,887,641	事業費	共同訓練激励費	550,000
年会費	3,933,910		表彰関係費	450,000
利息	1,000		友好親善行事費	700,000
寄付金	0		広報費	1,090,000
雑収入	0		総会費	500,000
			小 計	3,290,000
		運営管理費	入会活動費	50,000
			名簿関係費	110,000
			役員会運営費	140,000
			支部運営費	80,000
			事務所運営費	120,000
			事務通信費	100,000
			小 計	600,000
			予 備 費	200,000
			支出計	4,090,000
			翌年度繰越	4,732,551
合 計	8,822,551	合 計		8,822,551

平成26年度役員

職 名		氏 名	
会 長		外 菌 健 一 朗 (新)	
副 会 長		小 川 剛 義 (新)、織 田 邦 男 (新)、菊 川 忠 継 (新)	
理 事	理 事 長	上 田 完 二	
	副 理 事 長	野 田 耕 平	
	企 画	森 下 一 (再)、戸 田 友 敬 (再)、長 島 修 照 (再) 渡 邊 至 之 (再)、彌 田 清、谷 野 淳 一、平 田 英 俊 (新)	
	総 務	秦 啓 次 郎、糸 永 正 武 (再)、狩 集 貴 尚、福 井 正 明、石 野 次 男 (新)	
	渉 外	宮 脇 俊 幸、阪 東 政 詮、新 井 洋 一、高 橋 健 二、辻 章 嗣、 桃 木 正 幸 (再)、若 林 秀 男 (新)	
	会 員	米 沢 敬 一 (新)、木 村 孝 (再)、石 野 貢 三 (新)、森 田 公 治 (新)	
	広 報	山 本 康 正、杉 山 伸 樹 (再)、渡 部 憲 政 (再)、早 坂 正	
	財 務	山 崎 剛 美、池 田 勝、阿 部 英 彦 (再)、日 吉 章 夫 (新)	
	ホームページ	四 ッ 家 邦 紀 (再)	
監 事		藤 井 泰 司、田 中 和 之 (新)	
支 部 役 員	支 部 長	丸 山 泰 (三 沢)	石 津 靖 (沖 縄) (再)
	支 部 事 務 局 長	山 本 親 男 (三 沢) (再)	名 富 忠 夫 (沖 縄) (再)

注：再は再任、新は新任

【退任】会 長：吉 田 正
 副 会 長：永 岩 俊 道、堀 好 成、永 田 久 雄
 監 事：源 外 志 明
 理 事：射 場 義 彦、松 田 和 彦、金 子 康 輔、飯 田 雅 典

新入会員紹介

1 正会員

氏 名	住 所	氏 名	住 所
石 野 貢 三 氏	東京都練馬区	片 岡 晴 彦 氏	東京都国分寺市
若 林 秀 男 氏	東京都練馬区	大 宮 庄 司 氏	埼玉県さいたま市
杉 谷 元 氏	埼玉県ふじみ野市	杉 山 昌 宏 氏	神奈川県横浜市
渡 邊 和 博 氏	東京都足立区		

2 個人賛助会員

氏 名	住 所	氏 名	住 所
玉 江 浩 氏	東京都国分寺市	宮 房 重 光 氏	福岡県福岡市
美 馬 洋 平 氏	東京都国立市	山 下 守 氏	東京都板橋区
大 橋 至 氏	埼玉県入間郡	井 草 治 助 氏	東京都あきるの市

3 法人賛助会員

氏 名	住 所	代 表 者
株式会社 武蔵富装 様	東京都千代田区	土 屋 純 夫 氏
株式会社 KSAインターナショナル 様	京都府京都市	小 池 一 禎 氏

会 員 募 集

今期は関係各位のご努力で正会員7名、個人賛助会員6名、合計13名及び法人賛助会員2社の入会を得ることができました。26.5.19現在、正会員数247名、個人賛助会員数72名、法人賛助会員数45社と少しずつ会員数も増加しております。

今後とも、会員の皆様の勧誘、推薦、情報提供に関するご協力、ご支援を是非とも宜しくお願い致します。なお、本会への入会につきましては、次のとおりです。

推薦若しくは情報提供を頂いた方には直接会員担当係から連絡させていただきます。

【入会資格】

正 会 員： 航空自衛隊のOB

個人賛助会員： 航空自衛隊のOB以外の方で、正会員3名の推薦が必要です。

【連絡先】

○郵便： 〒162-0842 新宿区市谷砂土原町1-2-34 KSKビル3F
日米エアフォース友好協会 会員担当 行

○メール、電話： 木村 孝 (e-mail) membership@jaaga.jp
(tel.) 03-3456-9762

編 集 後 記

- ◇ 46号は、編集員の手作りです。これまで印刷会社の協力を得て行って来ていた編集業務を、経費削減の観点から印刷を除きすべて編集員が行い、宿願であった全頁カラー印刷化も実現致しました。
- ◇ 特集記事として、前号に引き続いての「日米幹部夫人交流活動紹介」と、米空軍士官学校の創設60周年を記念して「米空軍士官学校だより」を掲載致しました。
- ◇ 指揮官氏名、階級等は、記事当時のものです。
- ◇ 『JAAGA だより』はJAAGA ホームページ (<http://www.jaaga.jp/>) から閲覧できます。
- ◇ JAAGAでは、スペシャル・オリンピックスを支援する観点から、年2回のSPORTEX及び総会において“Charity Box”を設け、みなさんからのご寄付を集めることと致しました。集まったご寄付は、次年度の三沢、関東及び嘉手納スペシャル・オリンピックスに寄付致します。
- ◇ だより編集員一同、今後もJAAGAの活動を地道にフォローしていきたいと思っておりますので、会員の皆様のご支援、ご協力をよろしくお願い致します。

(編集子)

【米空軍／空自階級比較表】

米軍給与格付 (OFFICERS)	O-1	O-2	O-3	O-4	O-5	O-6	O-7	O-8	O-9	O-10	General of the Air Force ※戦時のみ
米空軍	Second Lieutenant (2nd Lt.)	First Lieutenant (1st Lt.)	Captain (Capt.)	Major (Maj.)	Lieutenant Colonel (Lt. Col.)	Colonel (Col.)	Brigadier General (Brig. Gen.)	Major General (Maj. Gen.)	Lieutenant General (Lt. Gen.)	General	General of the Air Force ※戦時のみ
階級											
階級章											
階級	3等空尉	2等空尉	1等空尉	3等空佐	2等空佐	1等空佐	—	空尉補	空尉	空尉	—
甲階級章											
乙階級章											

米空軍 (准 米空軍には無い。※陸軍、海軍、海兵隊では Warrant Officer

尉)
※ (W-1~5段階)

階級

准空尉

甲階級章

乙階級章

米軍給与格付 (ENLISTED)	E-1	E-2	E-3	E-4	E-5	E-6	E-7	E-8	E-9	Chief Master Sergeant of the Air Force (CMSAF)
米空軍	Airman Basic (Amn)	Airman	Airman Class (A1C)	Senior Airman (SrA)	Staff Sergeant (SSgt) (2等軍曹)	Technical Sergeant (TSgt) (1等軍曹)	Master Sergeant (MSgt) (曹長)	Senior Master Sergeant (SMSgt) (先任曹長)	Chief Master Sergeant (CMSgt) (上級曹長)	Chief Master Sergeant (CCM)
階級										
階級章										
階級	※3等空士	2等空士	1等空士	空士長	3等空曹	2等空曹	1等空曹	—	空曹長	—
甲階級章										
乙階級章										



USAF and JASDF NCO to
deepen their friendship through
training

